

令和5年度「学校評価」について

今年度の長岡中学校学校経営方針の「重点目標」である4項目にもとづいて取り組んだ内容について、教職員による自己評価を行いました。要約したものが下のとおりです。

学校経営の重点

- | | |
|--|-----|
| I 「確かな学力（基礎・基本の定着、思考力・表現力・判断力等、学習意欲）」を育てる。 | 2.2 |
| II 豊かな人間性と社会性を育てる。 | 2.7 |
| III 基本的生活習慣の確立と健康の管理・増進と体力の向上 | 2.2 |
| IV 保護者・地域から信頼を得る学校づくり | 2.7 |

(※4:十分達成できている 3:ほぼ達成できている 2:達成できているとはいえない 1:ほとんど達成できていない の4段階で自己評価)

I 「確かな学力（基礎・基本の定着、思考力・表現力・判断力等、学習意欲）」を育てる。

- ・3年間系統立ててICTを活用した最終課題を設定できた。その結果3年目の今年は、生徒たちはこれまで身に着けたスキルを存分に活用して課題に向かっていった。
- ・コロナで中止が続いていた職場体験を実施することができた。微々たるものではあると思うが、数年後の自分を考える機会になったのではないかと思います。
- ・単元構想を意識した授業デザインを、年間を通して行ったが、「わかる授業」の構築には、学習形態など学習指導の工夫という点で、まだまだ勉強が足りないと感じた。
- ・子どもたちの理解力をおおまかに認識し、そこに合わせた「わかる授業」を一定実施することができた。

II 豊かな人間性と社会性を育てる。

- ・週1回の教育相談部会の実施を通して生徒の情報を全体共有できた。ボランティアの協力を得ながら、別室を運用できた。また、「ここたん」の運用に課題が残った。来年度委員会活動と連携するなどして上手く運用できたらと思う。
- ・新生徒会のメンバーとともに、長中生の生活を盛り上げられれば、と思う。また、生徒会本部の生徒たちが前向きに取り組む姿勢を持てるよう、育てていきたい。
- ・いじめアンケートや教育相談を中心に、学校全体として生徒の実態把握に努めた。
- ・いじめについての実践では、現在、様々な過去の問題が掘り返されている現状を考えると、事象の大小に限らず、しっかりと記録をとっておく必要があった。
- ・いじめについては未然防止よりも初期対応になりがち。また、いじめの定義のハードルが低く、教員と生徒・保護者の認識に差を縮めていかなければならない。
- ・地域に関わる話をする機会が減ったように思うので、意識して交流する場を設けてもよいと思う。
- ・授業公開にて保護者と人権教育でどのような方針で指導していくかを共有することが出来た。
- ・生徒が主体的に活動できるようにするために、まずは自己肯定感を持たせたい。

III 基本的生活習慣の確立と健康の管理・増進と体力の向上を図る。

- ・部活動で、怪我や体調不良を訴える生徒が職員室に来ることがあった。その時対応する職員室の先生は、どのような状況だったかわからず、生徒の申告する処置や対応で十分なのか判断が難しい場面があった。部活動で起きた怪我や体調不良の対応は、その部活動の顧問で対応するべきだと思った。
- ・適切な休憩や体調管理が出来るよう声掛けをするようにした。
- ・今年度は睡眠についての講演を行う等、これまでにない観点から生徒に自らの健康を考える機会ができ、充実していたと思う。また、コロナの5類移行後も健康への意識付けができていたと思う。
- ・2年生で、男女を含む人間関係の距離感、SNSの被害などについての学習や、1年生で、性的マイノリティーについての学習を実施し、近年の課題を補うことができたと思う。さらに保健指導の指導内容や講演会の内容を充実させた。

IV 保護者・地域から信頼を得る学校づくりを進める。

- ・ICTの活用が紙面かは場合に寄るが、学級から家庭・地域への発信は弱いと感じている。子供たちだけへの語りでは未熟な分、浸透より受け流すこともあるだろう。大人同士の連携も見据え、子を導くアイテムとしてもっと積極的な活用を試みると具体的成果があるのではないかと。
- ・校区の部活動清掃に加え、福祉活動などができればと思う。
- ・多くの先生方が定期的に通信を発行しており、情報発信をしていると感じる。一部継続できなかったところもあり、継続できるように意識したい。
- ・保護者からの要望を学年、管理職と組織的に迅速に対応できた。

